

『児のそら寝』④ 〈僧たちと児の心情を考える〉

1 児の心情

① 児はどんな子どもだとわかるか。

(例)

- ・ 行儀がよい、生まれ育ちがよい
- ・ 見習いという自分の立場を配慮した振る舞いができる
- ・ 育ち盛りで、食欲が旺盛である、など

② 自分、あるいは現代の子どもならどうしていた、どう思っていたと思うか。

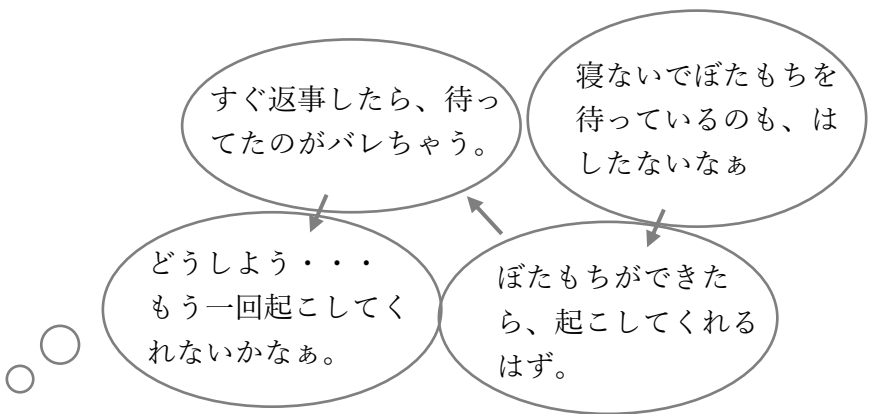
(例)

- ・ 現代の子どもでも、この児と同じように寝たふりをしたり、我慢できずに遅れて返事をしたりすると思う。

③ 児と私たちの気持ちや行動はなぜ同じ、あるいは違うと思うか。

(例)

時代や立場は違っても、食い意地が張っていることやうそがばれることを、恥ずかしく思う子供の気持ちは同じだと思うから。



2 僧たちの心情

① 僧たちは児の「寝たふり」がわかっていたと思うか。

(例) わかって、おもしろがっていたと思う。

② 僧たちはなぜ笑ったか。

(例) 児が我慢できずにした返事のタイミングが、かなり遅くずれていたのがおかしかったから。

③ 僧たちが笑った心情が理解できるか。それはなぜか。

(例) 今も昔も、子どもらしい失敗を、かわいく、おかしく思う気持ちは同じだから。

